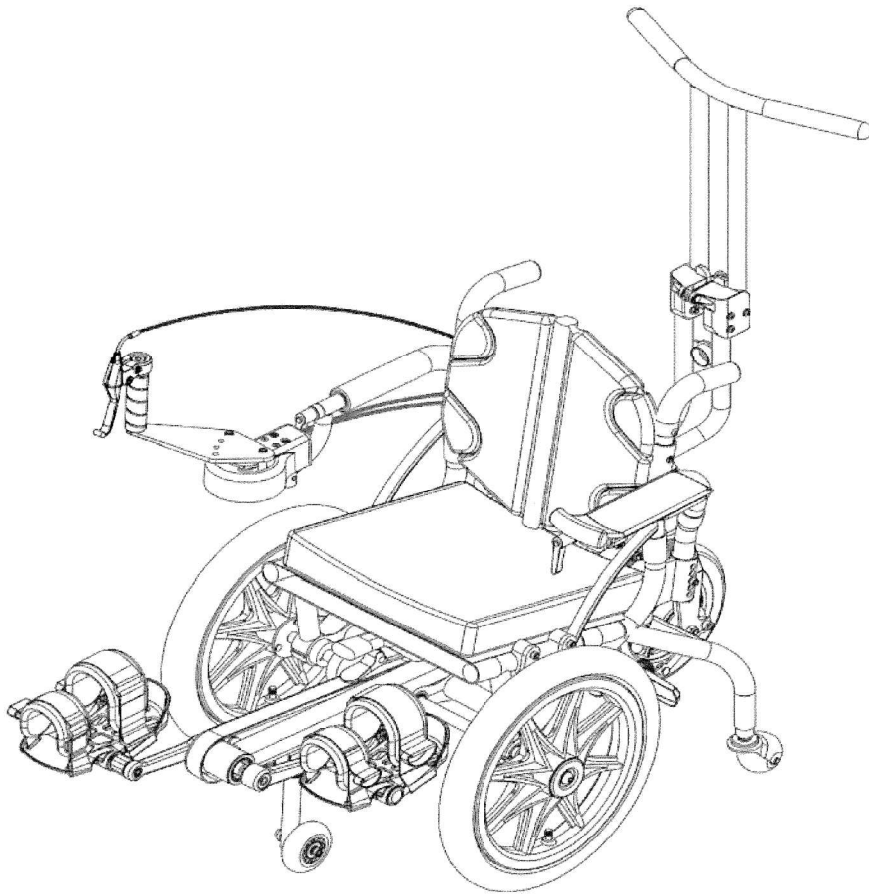


# COGY

1408 DP

安全にご使用いただくために



CE

- \* ご使用前に本書を最後までよくお読みください。
- \* 使用される方の能力、状態によって操作を誤ったり事故や転倒のおそれがあります。
- \* お子さまが使用される場合は、保護者の方が本書をよくお読みになり万全なご指導をお願い致します。
- \* 日頃の点検を怠ると思わぬ事故や破損の恐れがあります。

# はじめに

この度は、当社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

この取扱説明書には、お買い上げいただいた製品が十分にその性能・機能を発揮できるように、また、安全にご使用いただけるように、正しい取り扱い方法や点検・整備などについて必要な事柄を記載してあります。

車いすの取扱いを十分ご存じの方もこの製品独自の整備・取扱いがありますので、必ずご使用前に本書をよくお読みになっていただき、正しく、安全で、快適にご使用ください。

また、お子様が使用になる場合は保護者の方と一緒に本書をお読みになっていただき、保護者の方の万全なご指導をお願い致します。なお、本書は紛失しないように大切に保管ください。

\*お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるような所に保管してください。

\*落丁・乱丁がありましたらお取替え致しますので下記までご連絡ください。

## 【お客様相談窓口】

株式会社T E S S

〒980-8579 宮城県仙台市宮城野区榴岡 3-9-15

T E L : 022-353-9707 / F A X : 022-353-9708

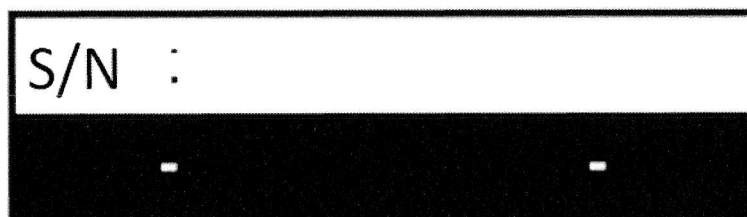
Mail: info@h-tess.com

## <シリアルナンバー表示位置>

アフターサービスについてのご相談に対しの確な判断・処置をするため、シリアルナンバーを正確にご連絡ください。

なお、シリアルナンバーシールはフレームの裏側にあります

あなたのシリアルナンバー



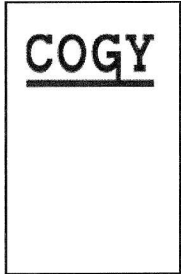
シリアルナンバー (S/N) をご記入ください

\*仕様変更や各機種共通仕様などにより図や内容に一部実物と異なる場合がありますのでご了承ください。

# はじめに

## <付属品>

付属品は次の通りですのでご確認ください。



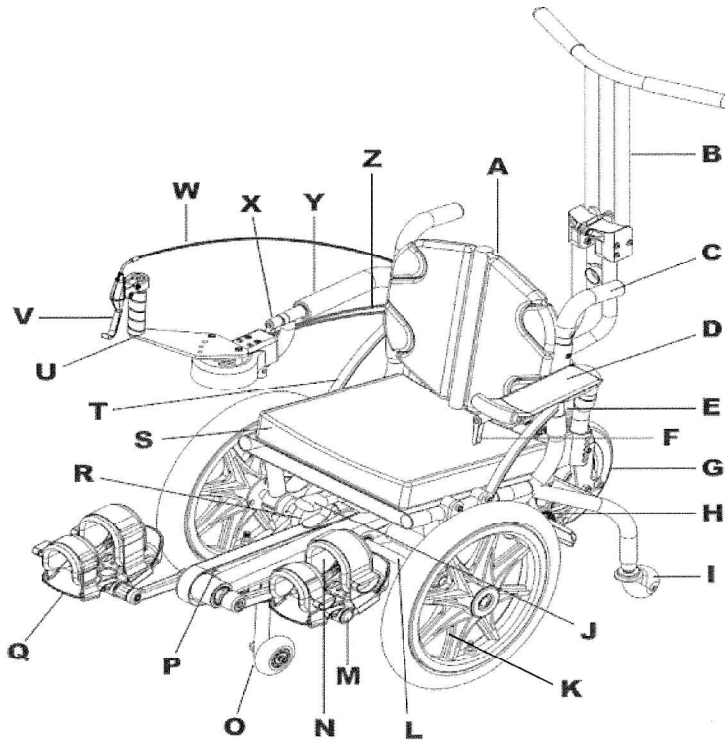
取扱説明書



六角レンチ

## 各部の名称

A: バックレスト・ アウターレザ	B: 保諸ハンドル	C: グリップ	D: ひじかけ	E: レバー (ハンドルレバー側)
F: レバー	G: 操舵輪	H: パーキングブレーキ調整ネジ	I: リアキャスター	J: パーキングブレーキ
K: ホイール	L: シャフト	M: ペダルリリースボタン	N: チェーン調節穴	O: フロントキャスター
P: チェーン	Q: ペダル	R: デファレンシャルギア	S: シート	T: フレーム
U: コントロールハ ンドル	V: ハンドブレーキ	W: ブレーキワイヤー	X: アームレストレバー	Y: アームレスト
Z: コントロール ワイヤー (2本)				



# 目次

## はじめに

シリアルナンバー表示位置.....	2
附属品.....	3
各部の名称.....	3
目次.....	4
安全上の注意・警告.....	6

## 1章 総説

ご使用の前の注意.....	11
基本的な操作方法と保管.....	12

## 2章 車いすに乗る前に

### 折りたたみ式補助ハンドル

折りたたみ式補助ハンドル.....	14
-------------------	----

### ハンドブレーキ及びパーキングブレーキの操作

ハンドブレーキの掛け方.....	15
パーキングブレーキのロック方法.....	15
パーキングブレーキ解除方法.....	15
警告.....	15
乗車・安全な介助.....	16

### コントロールハンドルの操作・調整・点検

操作方法.....	17
調整方法.....	17

### コントロールハンドルの操作・調整・点検

コントロールワイヤ-の調整.....	18
ブレーキワイヤ-の調整.....	18

ひじかけ取付・調整方法.....	19
------------------	----

## 3章 各部の調整・点検 ペダルの調整・点検

ペダル（バンド）の調整.....	21
ペダル取付方法.....	22
ペダル取外し方法.....	22

## バックレスト及びレザ-類の調整・点検

アウターレザ-の取外し方.....	23
アウターレザ-の取付け.....	23
ヒップレザ-の外し方.....	24
ヒップレザ-の取付け方.....	24
インナーレザ-の調整.....	25
インナーレザ-の取外し方.....	26
インナーレザ-の取付け方.....	26
バックレスト高の調整.....	27
シートレザ-の張り調整.....	28
シートレザ-の外し方.....	28
シートレザ-の取付け方.....	28

## リアキャスターの調整

高さ調節.....	29
-----------	----

## チェーンの調節・点検

張り調節・点検.....	30
--------------	----

## アームレストの調整・点検...

使用方法.....	31
高さ調節.....	32
ワイヤー固定位置.....	33

## その他調整・点検

タイヤの点検.....	34
ホイール回りの点検.....	34
その他の点検.....	34

## 4章 その他

### 仕様

仕様諸元.....	36
お客様相談窓口.....	37
保証書.....	38

# 安全上のご注意

## <絵表示について>

この取扱説明書では、この製品を安全に正しくお使いいただき、あなたやほかの人々への危害や財産への損害を未然に防ぐ為に、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は、次の通りです。内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容及び物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



この表示は、増し締め箇所を示しています。定期的に、ゆるみが無いか点検・増し締めをしてください。

# 安全上の注意



## 自操用車いす以外の目的に使用しない。

事故や転倒などのおそれがあります。また、車いすを損傷させる恐れがあります。  
この製品は自操・平坦地専用です。補助動力装置は取付けないでください。

## 壊れまま異常があるときは使用しない。

事故や転倒などのおそれがあります。故障や異常を見つけたら車いすの使用をやめ販売店にご相談下さい。

## 改造・分解しない。

改造すると安全性が低下して部品が破損したり、外れたり、車いすを破損させたりし、事故や転倒等のおそれがあります。改造・分解は行わず、整備が必要な時は販売店にご相談ください。

## 調整作業に不安があるときは調整しない。

部品が破損したり、外れたり、車いすを損傷させて、事故や転倒などのおそれがあります。  
不安な時は販売店にご相談ください。

## 不十分な調整で使用しない。

身体に無理をかけたり、<sup>じょくそう</sup>褥瘡などになるおそれがあります。  
身体の状態に合わせて、正しい乗車姿勢が保て、麻痺部位と車いすの固い部分（フレームなど）が接触しないように調整します。

## ホイールの装着後、固定を確認せず使用しない。

ホイールが外れて転倒などのおそれがあります。  
必ず乗る前に点検をしてください。

## 乗車時はホイールのボタン（プッシュロッド）には触れない。

ホイールが外れて転倒などのおそれがあります。

## 高温になる場所（炎天下の自動車内、暖房器具の近く等）に置かない。

火災ややけど等のおそれがあり、また、パンク等部品を著しく痛めるおそれがあります。

## 車いすに巻き込まれやすい服装は避ける。

ホイールやキャスターなどに巻き込まれ、事故や転倒などのおそれがあります。

## 他の乗り物につかまりながら、車いすの上で立ち上がったりしない。

車いすが損傷したり、転倒・転落などのおそれがあります。

## 車いすに踏み台にしたり、車椅子の上で立ち上がったりしない。

バランスを崩し転倒・転落の恐れがあります。

## 自動車に車いす積み込む際は確実に固定する。

自動車の運転中に車いすが動き、運転に支障をきたしたり、故障の原因になります。

# 安全上のご注意



**ペダルに直接乗ったり、立ったりしない。**

転倒や転落などのおそれがあります。また、車いすが損傷します。

**掃除する時などに、タイヤやブレーキにワックスなどの油分を付けない。**

ワックスなどの油分は付くと、タイヤやブレーキが滑り、十分なスピード調整ができなくなり事故や衝突・転倒などのおそれがあります。

ワックスなどの油分が付いた時には、十分脱脂してください。

**雨などで水に濡れた時は、スピードを出さない。**

ブレーキやタイヤが滑り、十分なスピード調整ができなくなり、事故や衝突・転倒などのおそれがあります。水分が付いたときには乾いた布で十分拭き取ってください。

**下り坂などではスピードを出さない。**

衝突や転倒などの事故おこしやすく危険です。ブレーキでスピード調整してください。

**急坂などでの使用は避ける。**

車いすが止まらなくなることで事故や転落・転倒のおそれがあります。

介助による移動でも危険を伴うおそれがあります。

**悪路・荒地には入らない。**

事故や転倒などのおそれがあります。また、車いすを損傷させるおそれがあります。

この製品を山岳・荒地・砂地・河原・水中・泥地などのオフロードでは使用しないでください。

**動く歩道の上で使用しない。**

公共の場や空港等に設置されている動く歩道では使用しないでください。

コントロールを失うおそれがあります。

**凹凸の激しいところ（踏切、歩道などの段差や溝）は自操を避ける。**

キャスター、ホイールがはまったり、車いすを損傷させ、事故や転倒のおそれがあります。

**段差の飛び降りなど、乱暴・無理な取扱いをしない。**

車いすを損傷させ、事故や転倒などのおそれがあります。

**ペットを連れて使用しない。**

ペットに車いすごと引きずられ、事故や転倒などのおそれがあります。

**滑りやすいところは自操を避ける。**

降雪時、凍結路、工事用の鉄板やぬかるみ、軌道敷などはスリップしやすく事故や転倒などのおそれがあります。介助してもらいましょう。

**傘をさして使用しない。**

レインコート・帽子など使用してください。

# 安全上のご注意



**パーキングブレーキをかけたまま走行しない。**

ブレーキを損傷させ、事故や転落のおそれがあります。  
パーキングブレーキを解除してから走行しましょう。

**未使用時の車いすに乳幼児近づけない。**

車いすを倒して下敷きになったり、けがするおそれがあります。

**運動機能が低下するもの（アルコールや風邪薬など）を摂取した時は自操しない。**

事故や転倒などのおそれがあります。

**回転部（タイヤ、ホイールなど）に手を触れない。**

手を巻き込まれるおそれがあります

**バックレストに純正以外のバッグなど取付けない。**

ブレーキワイヤー、コントロールワイヤーなどに接触し事故や転倒のおそれがあります。

**エスカレーターは使用しない。**

事故や転倒・転落の恐れがあります。

**点検・整備をする。**

点検整備を怠ると故障や事故などのおそれがあります。  
日常点検・整備、及び1か月に1回、各部の点検・整備をしてください。

**車いすを漕ぎ出す時、また走行中は周囲に気を付ける。**

子供などが車いすの回転部・可動部に手などはさまれるおそれがあります。

**身体の状態に適したクッションを使用して車いすに着座する。**

じよくそう  
褥瘡になるおそれがあります。

**自動車の座席として使用しない。**

車いすに移乗したまま、自動車の座席として車いすを固定して使用すると、車いすが破損し事故のおそれがあります。

自動車の座席、またはそれに耐えられる車いすに乗り換えてください。

**夜間走行は避ける。**

事故に遭うおそれがあります。  
明るい道の利用、視認性の高い服装・機器などで自衛しましょう。

**移乗時・停車時・未使用時はパーキングブレーキをかける。**

車いす動きだして落下・転落・転倒などのおそれがあります。  
少しの間の停車、駐車でも必ずパーキングブレーキをかけてください。



# 安全上の注意



## 素足で使用しない。

けがのおそれがあります。

靴下をはき、底・かかとのある履物をはいて使用してください。

## 屋外に放置しない。

気象変化や気温変化により、車いすが著しく劣化します。

必ず屋内に保管ください。

## クッションや衣類などと回転部（タイヤ・ホイールなど）を接触させない。

クッション、衣類などが損傷します。

## 面ファスナーは確実に貼付ける。

固定力が低下して、調整状態が変わります。

## 面ファスナーに付着したほこり・砂・糸くずなどは取除く。

固定力が低下して、調整状態が変わります。

## ペダルを足に装着せずに車いすを動かさない。

ペダルが床と接触し破損、また床を傷つけるおそれがあります。

ペダルを車いすから取外して動かしてください。

## チェーンカバーに足を乗せない。

チェーンカバーが破損するおそれがあります。

## 定期的に入入れをする。

バックレストやシートが汚れた場合、中性洗剤などで手入れをしてください。

## 皮膚性の感染症等が懸念される場合、共有での使用をしない。

感染のリスクを避ける為、感染症がある場合の共有でのご使用はお控えください。

## 衣服等を着用の上使用する。

アレルギー等をお持ちの方は素材による刺激を受けないようにしてください。

## 使用者最大体重

スモールサイズ (SS) : 100kg (積載物も含む)

制限重量を超えてのご使用はおやめください。

車いすの破損又は自己や転倒のおそれがあります。

## 室内で使用ください。

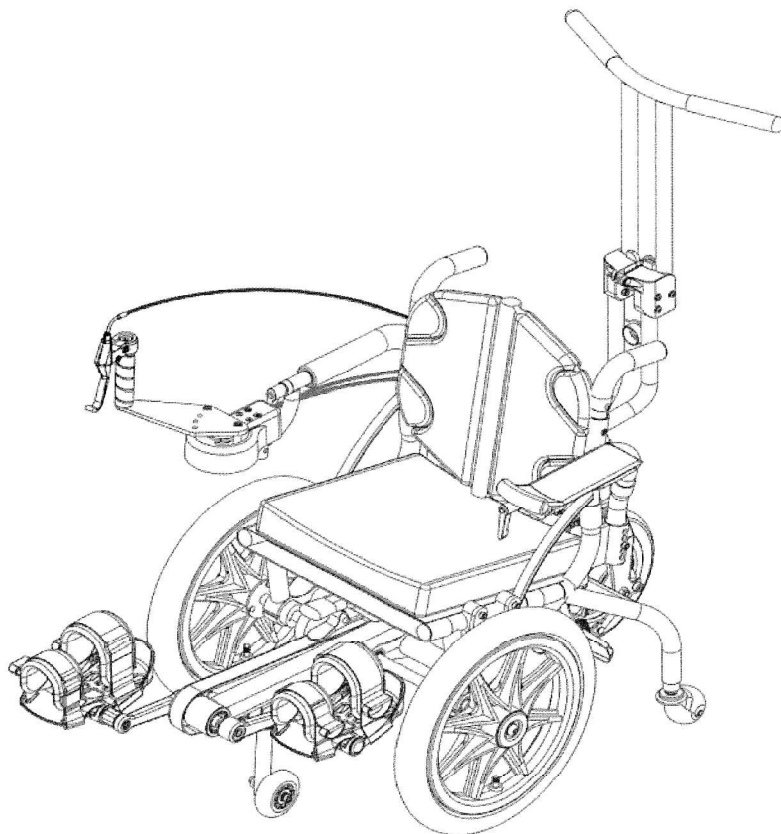
外で使用する場合は、平らな場所をご利用ください。また、介護者の同伴の上、周囲の環境に十分気を付け、ご利用ください。

# 1 章 総説

この章では、基本的な操作方法とお手入れや  
保管方法及び調整・点検について説明しています。

ご使用前の注意

基本的な操作方法と保管について



## ご使用前に

### A. コントロールハンドルの取付け

- 1) コントロールレバーアームレストにソケットを差し込みます。
- 2) コントロールレバーは前後の位置調整が可能な為、乗車される方に合わせて位置調整を行い、レバーAをロックしてください。

### B. ひじかけの取付け

※COGY専用ひじかけは、必要に応じてコントロールハンドルの反対側に取り付けてご使用ください。

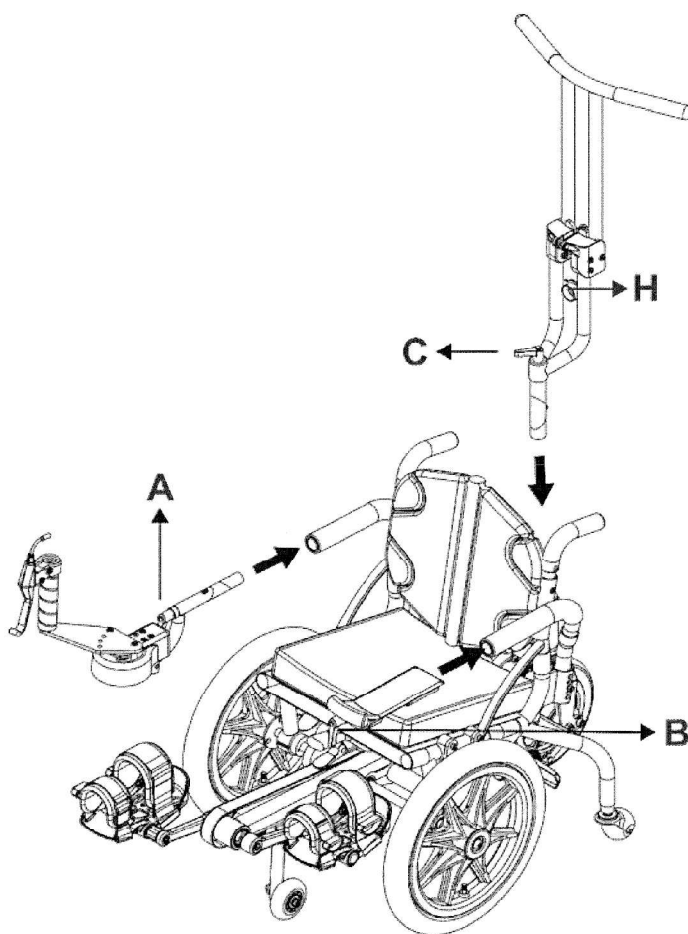
※ひじかけ位置の交換の方は、P19を参照し交換を行ってください。

- 1) ひじかけをアームレストソケットに差し込みます。
- 2) ひじかけは、前後の位置調整が可能な為、乗車される方に合わせて位置調整を行いレバーBをロックしてください。

### C. 折りたたみ式補助ハンドル取付け

※COGY専用介助ハンドルはP14を参照し交換を行ってください。

- 1) 後輪のキャップを取外し介助ハンドル差し込んでください。
- 2) 介助ハンドルを後輪のキャップを取外したところにさしこみ右に回しノブCをロックしてください。



## 基本的な操作方法

- 車いすのシート部にクッションを指揮、クッションに着座してください。
- 靴をはいた足をペダルに乗せてバンドで固定してください。
- 走行する時は、ペダルを両足で回転させてください。
- 走行する前に、前進・更新の動きを行い、ペダルをこぐ動きになれた後に走行を行ってください。
- 車いすが動き出してから、コントロール操作を行ってください。
- 停止する時は、ハンドブレーキレバーを握ると停止します。
- 駐停車時、移乗する時は、必ずパーキングブレーキをかけ、前輪をロックしてください。

## 調整・定期点検

- この車いすには各所に調整機構がありますので、使用者の状態に合わせて各所の調整を行ってください。
- 以下の調整を定期的に行ってください
  1. この車いすには、各所に調整機構がありますので、使用者の状態に併せて各
  2. 最適な姿勢で使用できるように各部の調整を行って下さい。
  3. 調整作業には必ず点検を行ってください。
  4. 1か月に1回を目安にして定期点検をおこなって下さい

## 保管について

- 必ず屋内で保管してください。
- 再びご使用の際は点検・整備をしてください。

## 調整可能な箇所

1. パーキングブレーキ：効き具合の調整
2. コントロールハンドル：高さ調整
3. ペダル（バンド）：長さ調整
4. シート（座面）：張り調整
5. リアキャスター：高さ調整
6. チェーン：張り調整
7. アームレスト：高さ調整
8. ハンドル（グリップ位置）：高さ調整

# 車いすに乗る前に

## 2章

### 車いすに乗る前に

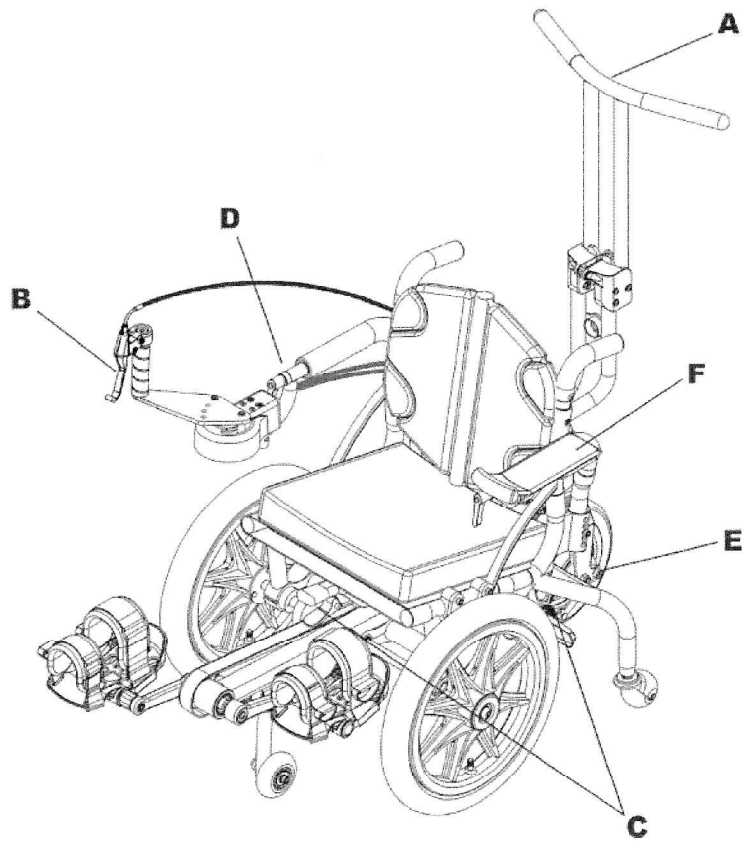
この章では、この車いすの基本的な機能について説明しています。  
ご使用になる前に次の各説明を必ずお読みください。

A. 折りたたみ式補助ハンドル

B. ブレーキレバー操作方法

C. コントロールハンドル及び  
パーキングブレーキ調整方法

D. ひじかけの取り付け・調整方法



## 折りたたみ式補助ハンドル

1. 図 1-1 のようにハンドルを上伸ばします
2. スライド・ロック A は中心を跨ぎ、下方へ押すことにより締まります。
3. 後部車輪上のキャップをはずします。キャップ消失を防ぐためにソケット B にキャップをはめて保管してください。
4. ハンドルを後輪上のソケット D に差し込み、黒いフラップ C を時計回りに回して締め、反時計回りに緩めます。

※十分に締め付けられていることを、使用する前に毎回点検してください。

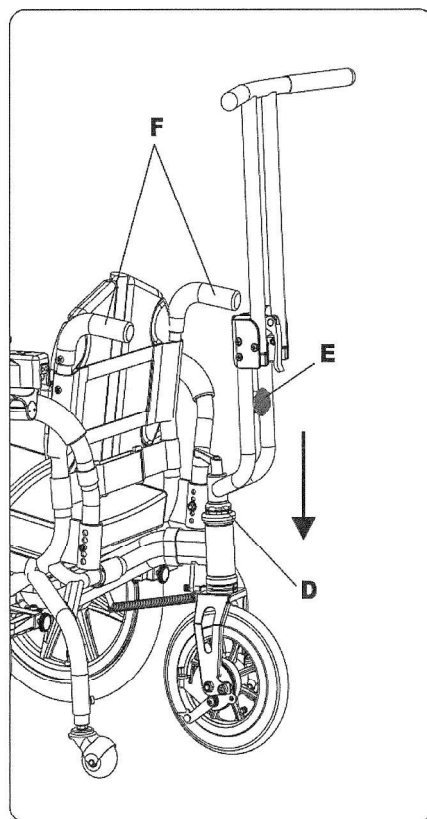
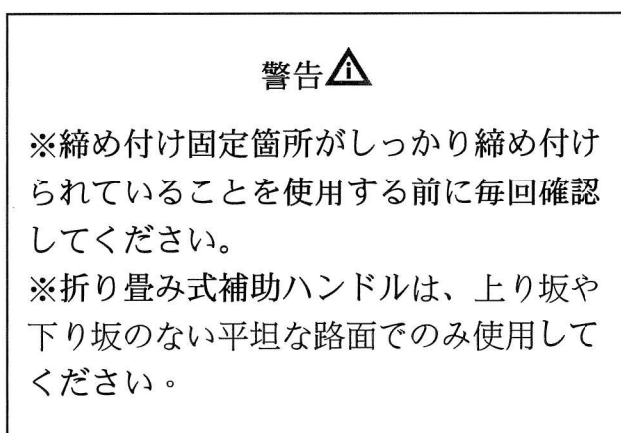


図 1-1

## ハンドブレーキ及びパーキングブレーキの操作

### <ハンドブレーキのかけ方>

- 1) ハンドブレーキレバーを適切な速度になるまで、または停止するまで握る。  
※ワイヤーがねじれ、切れるおそれがあるのでブレーキレバーを必要以上に回転させないでください。360° 以上回転させる必要はありません。
- 2) ペダルをこぐ速度を適切な速度になるまで、または減速効果があるまで落とす。

### ▲警告

パーキングブレーキをかけた状態で、車いすが動かないことを確認する。  
\*転倒・転落のおそれがあります。  
\*〈ブレーキワイヤーの調整〉を適宜行いブレーキの効き具合を最適に保ってください。

### <パーキングブレーキのロック方法>

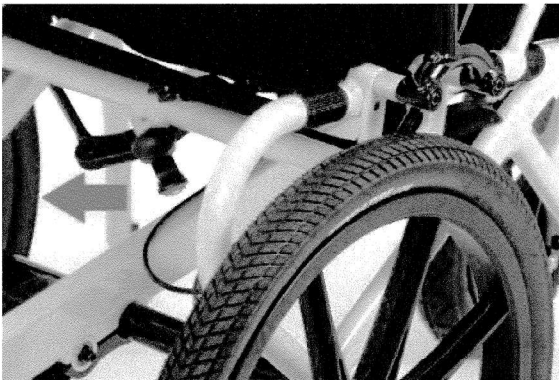
シート下にあるレバーを矢印の方向に押し切る。【図1-2】

【レバーが固く押し切ることができない、または両輪が固定できていない場合】

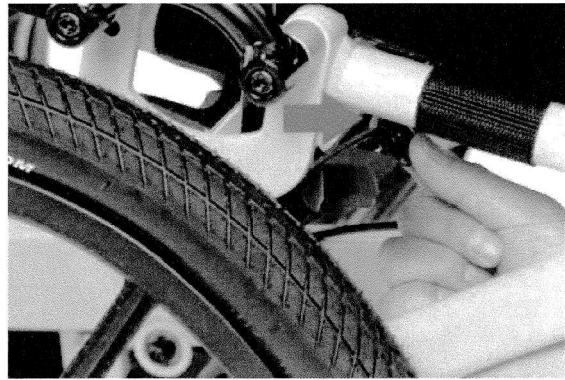
ロックが解除された状態で、パーキングブレーキの両サイドの調整ネジで調整してください。

【図1-3】を上向きに回すと緩み、下向きに回す締めります。

※調整を行う前に、必ず両輪のタイヤ圧が同じであることを確認し、同じ高さになるように調整を行うようにしてください。



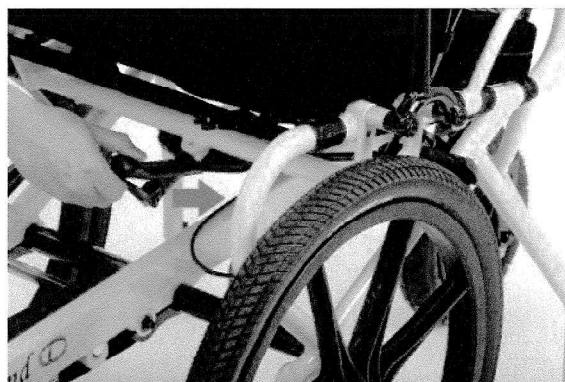
【図1-2】



【図1-3】

### <パーキングブレーキの解除方法>

レバーを矢印の方向へ押し切ってください。【図1-4】



【図1-4】

## 乗車・安全な介助

### <乗車姿勢>

車いすのシート部にクッションを敷き、着座してください。  
足はペダルに乗せてください。  
最適な姿勢で使用できるように、ペダル（バンド）の調整、  
バックレストの調整、レザー類の調整を行ってください。  
※3章各部の調整・点検参照。

### <安全な介助のために>【図1-7】

- 1) 介助者が車いすを押して移動する時はグリップやフレームを持つようにしてください。  
※介助における移動速度には十分注意してください。  
速い速度で押された場合、ペダルの回転が速くなり、  
乗車している方がけがをする恐れがあります。
- 2) 介助による持ち上げに対応していません。人が乗車している  
状態で持ち上げないでください。

※持ち運ぶ際には、グリップとフレームを持つようにし、  
直接アームレストを持って運ぶことはしないでください。

### 警告

この車いすは介助による持ち上げに対応していません。  
人が乗車している状態で持ち上げないでください。

### 注意

傾斜地での乗車は、転倒・転落の恐れがありますので、平坦な場所で行ってください。



【図1-7】



# 車いすに乗る前に

## コントロールハンドルの操作・調整・点検

### ● 操作方法 (図 1-5 参照)

1. 必ずペダルを漕ぎながらハンドル操作を行ってください。  
停止した状態でハンドルを動かすと、うまく進まないことがあります。ハンドルを上から見て時計回りに回すと右、反時計回りで左に曲がります。後進時も同様です。

### ● 調整方法 (図 1-5 参照)

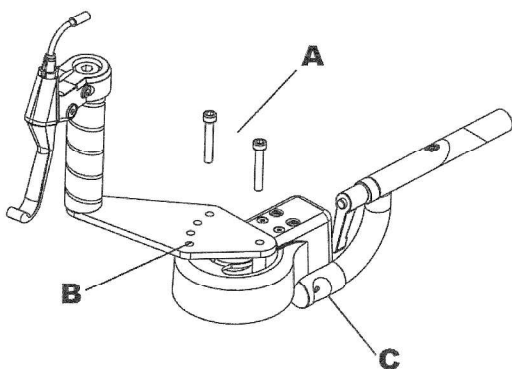
1. ノブ E を調整するには、右または左に回して締めたり緩めたりします。調節中にコントロールワイヤー等がノブにあたる場合は、ワイヤーを避けながらしっかりと締まるまで調整してください。  
(※確実に固定されていることを確認してください)
2. ネジ A の位置を調整することで、利用者に適したハンドルの位置に設定することができます。コントロールレバーの保持/把持距離の変更は、ネジ A とネジ B の位置を変更することで調整できます。
3. コントロールレバーを右に取り付ける場合は、ネジ D をソケット C に差し込みます。一方、左に取り付ける場合は、手順を繰り返してください  
(※左右付け替え可能なように、C の両面には溝があります)
4. ノブ E を回してコントロールレバーを緩めたり、締めたり、前後に動かしたりすることができます。

### 警告 ⚠

※ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。固定されていないと車いすをコントロールすることができず、事故の原因となり危険です。

※調整中にポール内部が露出しないようにしてください。そうしないとポールが曲がって車椅子に損傷を与える危険性があります。

※ハンドルの位置や調整を行う際には、ワイヤー・ブレーキケーブルの扱いに注意して下さい。



右側設定の場合 図

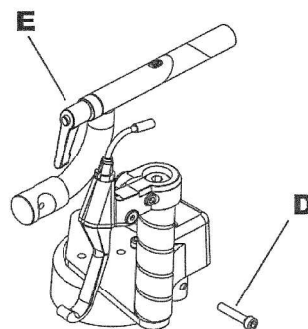
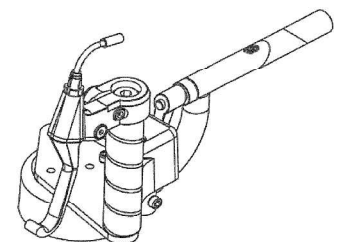


図 1-5



左側設定の場合 図

## コントロールハンドルの操作・調整・点検

### <コントロールワイヤーの調整>【図1-6】

※コントロールワイヤーが緩くなった場合、下記の調整をおこなってください。

- 1) Bナットを緩める。
- 2) Aを回してハンドルの遊びを調整する。
- 3) Bナットを締める。

注意: 強く締めるとAが破損します。

目安としては、手で回らない程度。

※この調整を行ってもハンドルに遊びがあるときは販売店にご相談ください。

#### ⚠注意

コントロールワイヤーを張り過ぎない。

\*ハンドル操作中にワイヤーが切れる恐れがあります。

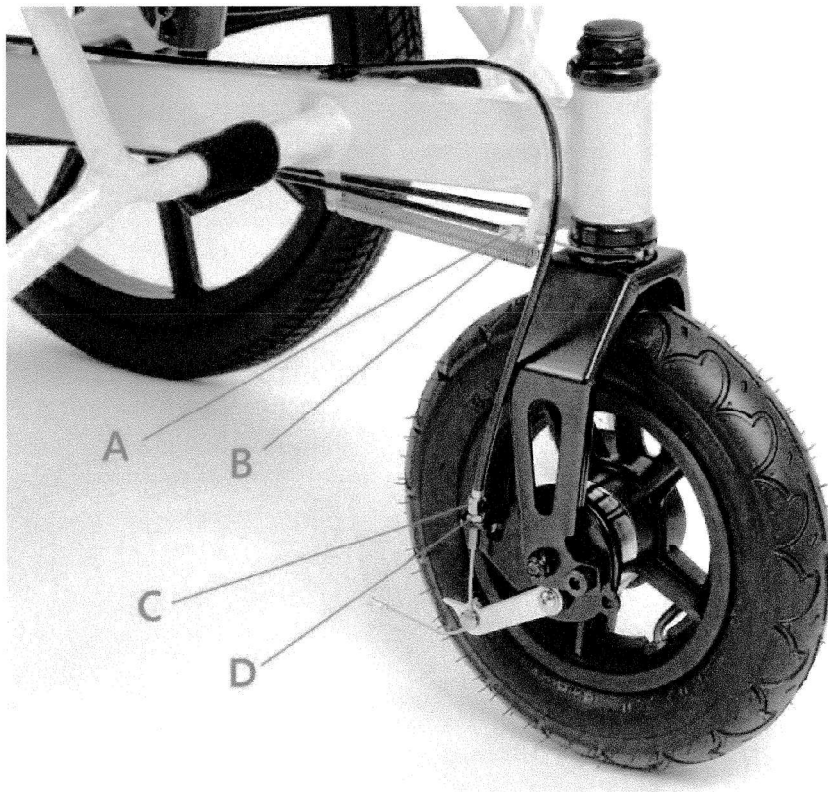
### <ブレーキワイヤーの調整>【図1-6】

※ブレーキワイヤーが緩くなった、またはブレーキが効かなくなった場合、下記の調整をおこなってください。

- 1) Dナットを緩める。
- 2) Cを回して調整する。
- 3) Dナットを締める。

注意: ワイヤーを張りすぎないようにしてください。ワイヤーが切れる恐れがあります。

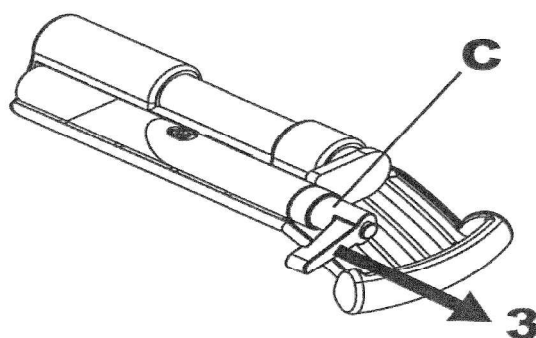
※調整してもブレーキがかからないときは使用をやめ販売店にご相談ください。



【図1-6】

## ひじかけの取り付け・調整方法

1. ノブ (C) を調整するには、右または左に回して締めたり緩めたりします。  
調整中にワイヤーその他のパーツ部位に干渉している場合は、避けて調整してください。  
(※確実に固定して下さい)



2. 左右の調整：ポール B を固定し、パッド A を No1 の方向に押します。次にノブ C を No2 のように回して調整します (図 1-7-1 のように正しい方向に取り付けてください)

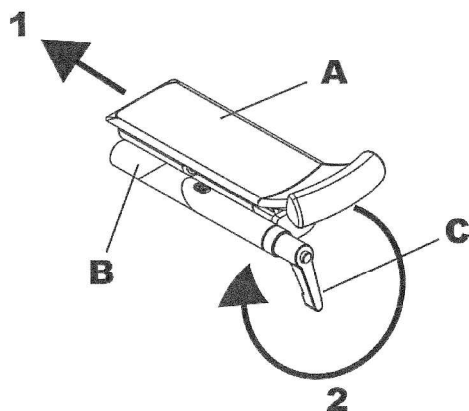


図 1-7

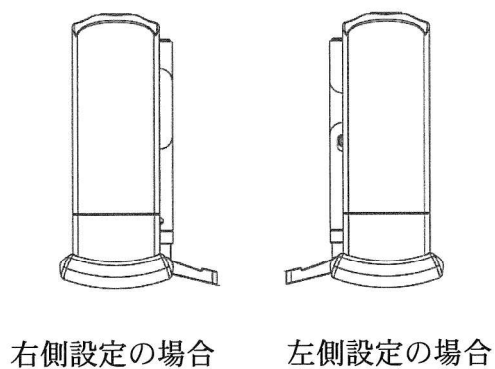


図 1-7-1

# 3 章

## 各部の調整・点検

この章では、各部の調整・点検について説明しています。

ペダルの調整・点検

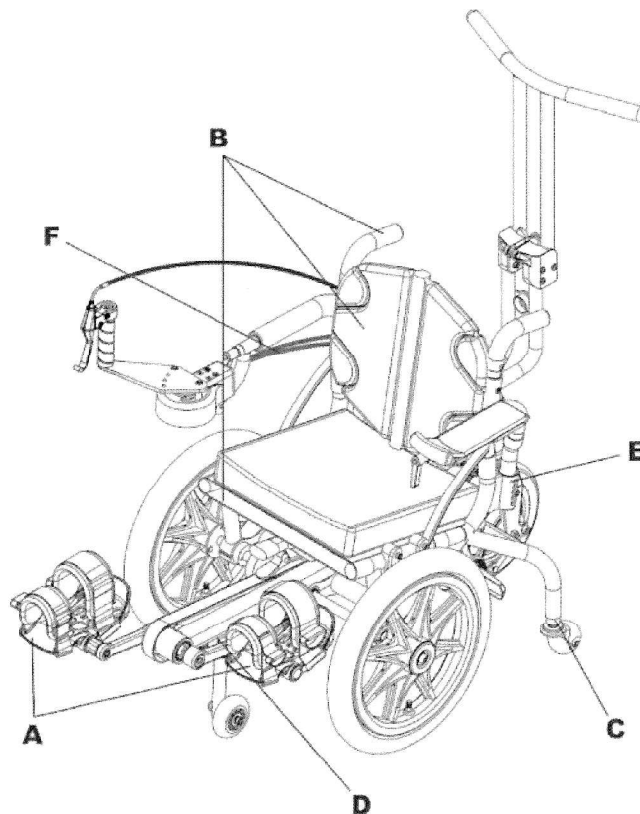
バックレスト及びレザー類の調整・点検

リアキャストの調整

チェーンの調整・点検

アームレスト調整・点検

その他の調整・点検



## ペダルの調整・点検

### ＜ペダル(バンド)の調整＞

【図2-1】

- 1) ①バンド、②バンドを、リングを持って面ファスナーをはがし、緩める。
- 2) 矢印の方向に足を入れる。
- 3) ①②バンドを、リングを引張り、締める。
- 4) バンドが長すぎ・短かすぎで面ファスナーが貼れない場合はバンド根元の固定部分(面ファスナー)で調整する。
- 5) 足がずれたり脱落しないか確認する。

#### ⚠警告

必ず靴を履いて使用する。  
\*足を傷つけるおそれがあります。

#### ⚠警告

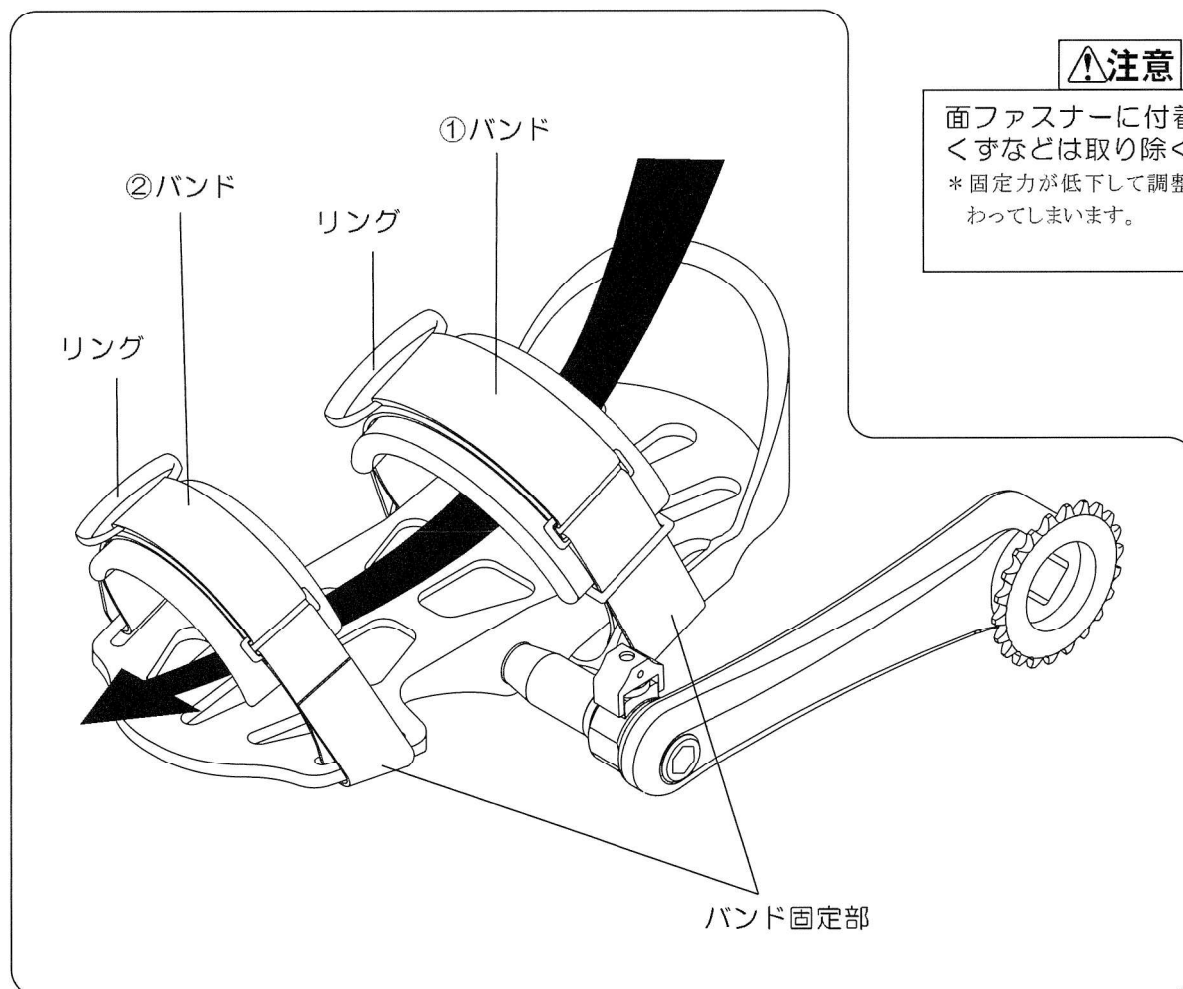
ペダルから足が脱落しないか確認する。  
\*足が脱落し転倒・転落のおそれがあります。また、足を傷つけるおそれがあります。

#### ⚠注意

面ファスナーは確実に貼り付ける。  
\*固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

#### ⚠注意

面ファスナーに付着した糸くずなどは取り除く。  
\*固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。



【図2-1】

# 各部の調整・点検

## ペダルの調整・点検

人が乗車していない状態で車いすを移動させるときは、ペダルの破損や、床を傷つけることを防ぐためペダルを取外してください。

### ● 取り付け方

1. 側面のボタン A (図 1-9) を押し、ペダルシャフト C (図 1-9) をクランクに挿入し、クランクシャフトが適切にしっかりと固定されるようにします。図 1-9
2. 完全に挿入できない場合は、ペダルシャフト C が確実に定位置に固定されるまで (カチッと音がして固定されるまで) 回してください。図 1-9

\*ペダルが正しく固定されていることを確認するために、クランクのノズルが元の位置に戻っているか確認してください。

\*水をこぼした場合は直ぐに拭き取り、防錆油でペダル軸を保護してください。

### ● 取り外し方

1. 側面のボタン A を押します。
2. 同時にクランクからペダルを引き抜きます。

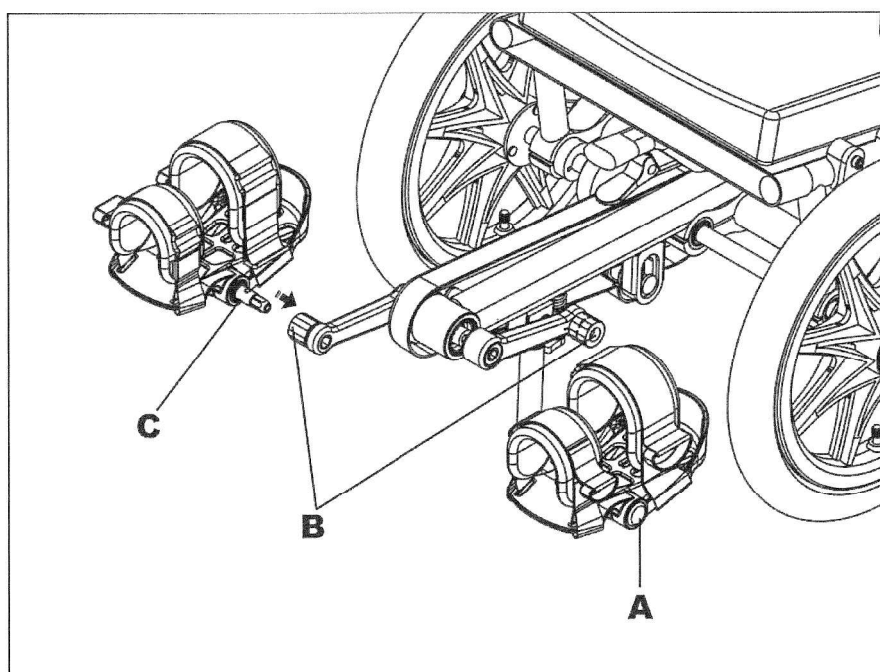


図 1-9

## バックレスト及びレザー類の調整・点検

### <アウターレザーの取外し>【図2-3】

アウターレザー前面下部から面ファスナーをはがしていき、後方もそのままはがします。

### <アウターレザーの取付け>【図2-3】

アウターレザー前面下部が最適な高さになる位置にし、面ファスナーを貼付けていきます。四角形のワッペンが車いす前方の下部にくるようにアウターレザーを取付けてください。

#### ⚠注意

アウターレザーの内蔵スポンジの弾力が無くなってきたら交換する。

\*背中や腰に褥瘡しよくそなどができるおそれがあります。

\*スポンジのみの交換はできません。

#### ⚠注意

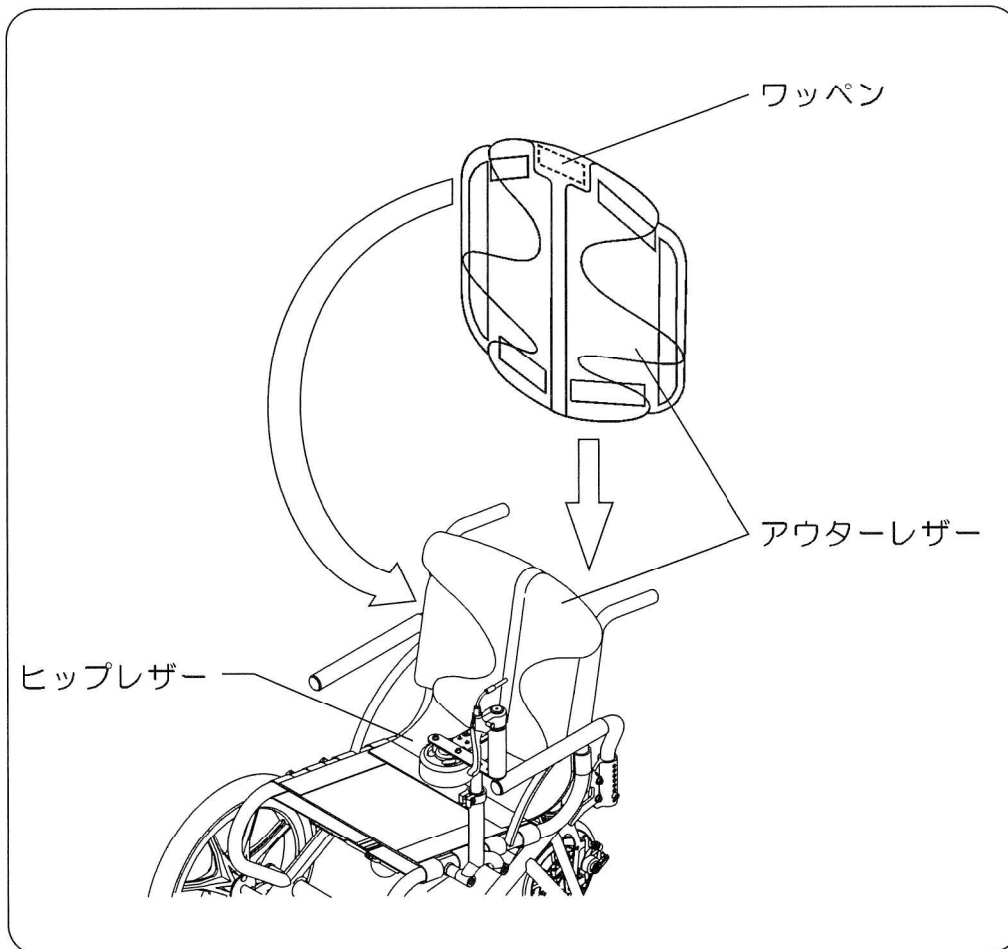
面ファスナーは確実に貼り付ける。

\*固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

#### ⚠注意

面ファスナーに付着した糸くずなどは取り除く。

\*固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。



【図2-3】

## バックレスト及びレザー類の調整・点検

### <ヒップレザースの外し方>【図2-4】

- 1) アウターレザーを外す。(P.24)
- 2) ヒップレザースのバックレスト側の面ファスナーをはがす。
- 3) ヒップレザースのシート側の面ファスナーをはがして取外す。

#### 警告

ヒップレザースの張りは乗車姿勢に影響するので正しく調整する。

### <ヒップレザースの取付け方>【図2-4】

ヒップレザースには向きがあります。取付けの際は注意してください。

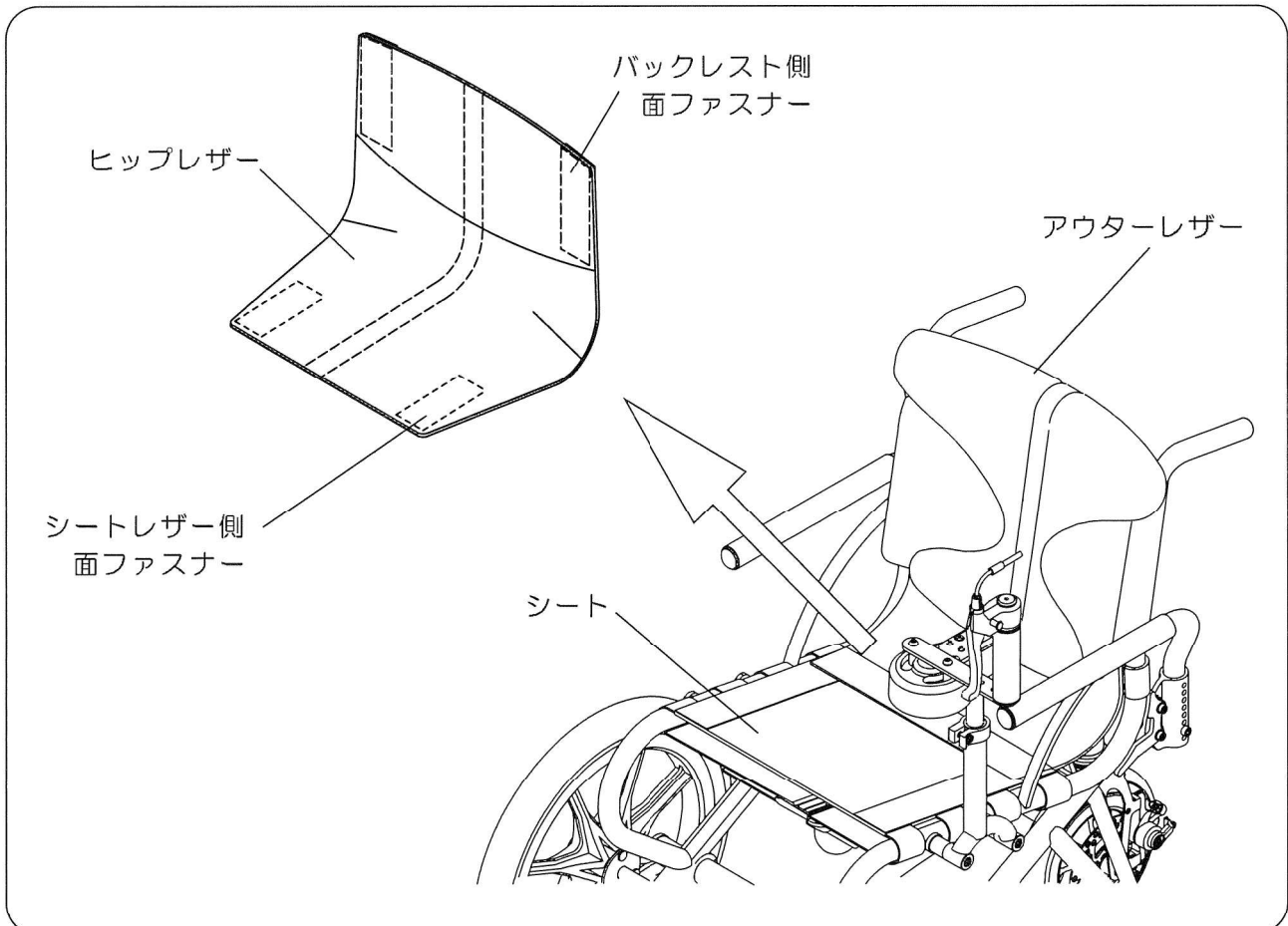
- 1) ヒップレザースのシート側の面ファスナーを貼り付ける。
- 2) ヒップレザースのバックレスト側の面ファスナーを貼り付ける。
- 3) アウターレザーを取付ける。(P.24)

#### 注意

面ファスナーは確実に貼り付ける。  
\* 固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

#### 注意

面ファスナーに付着した糸くずなどは取り除く。  
\* 固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。



【図2-4】



## バックレスト及びレザー類の調整・点検

### ＜インナーレザーの調整＞【図2-5】

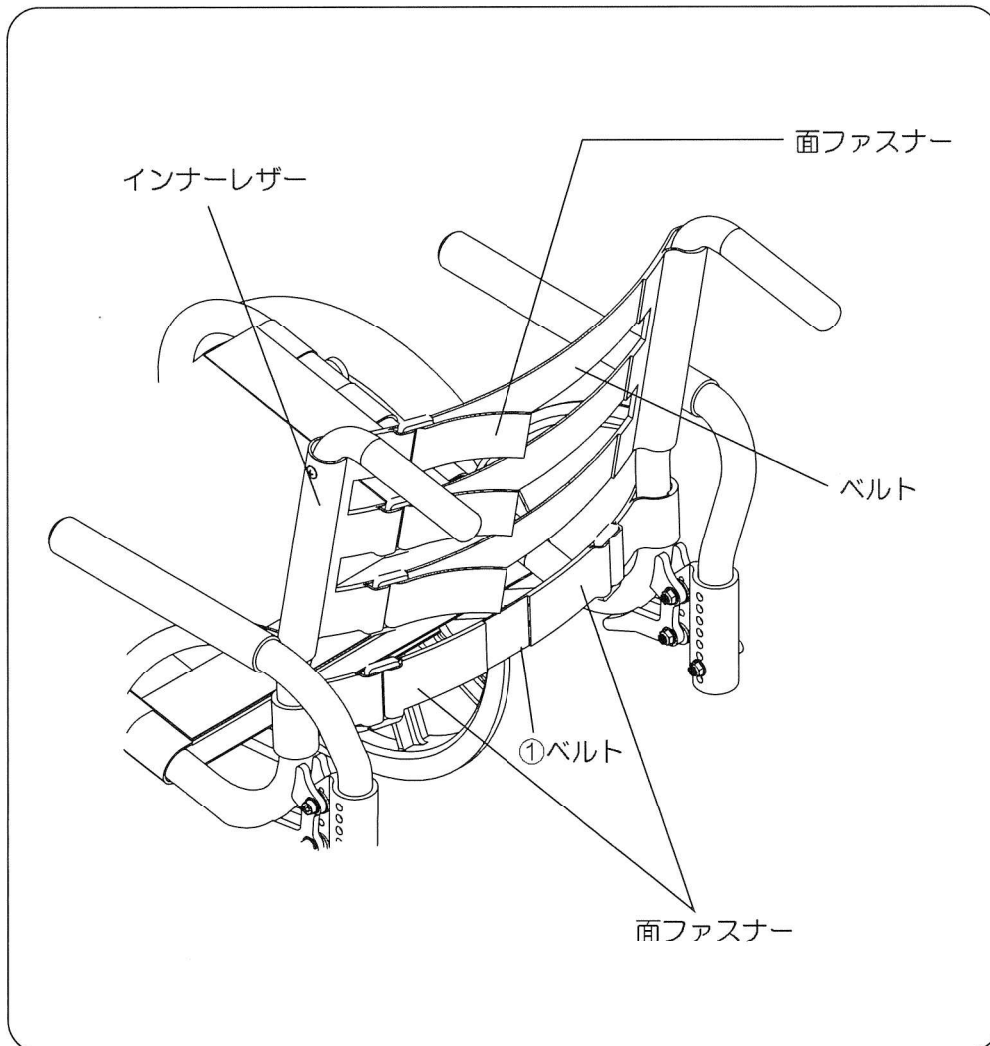
- 1) アウターレザーとヒップレザーを外す。(P.24・25)
- 2) インナーレザー上下各部のベルト、①ベルトを最適な張りに調整する。
- 3) アウターレザーとヒップレザーを取付ける。(P.24・25)

#### ⚠注意

面ファスナーは確実に貼り付ける。  
\* 固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

#### ⚠注意

面ファスナーに付着した糸くずなどは取り除く。  
\* 固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

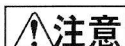


【図2-5】

## バックレスト及びレザー類の調整・点検

### <インナーレザーの取外し>【図2-6】

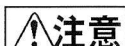
- 1) アームレストを、はね上げる。(P.32)
- 2) アウターレザーを取外す。(P.24)
- 3) ヒップレザーを取外す。(P.25)
- 4) 左右の取付けネジを取外す。
- 5) <バックレスト高の調整> (P.28) を参照し、グリップを引抜いた後、インナーレザーを上を引抜く。
- 6) ①ベルト左右の「A」の面ファスナーをはがし取外す。



面ファスナーは確実に貼り付ける。  
\* 固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

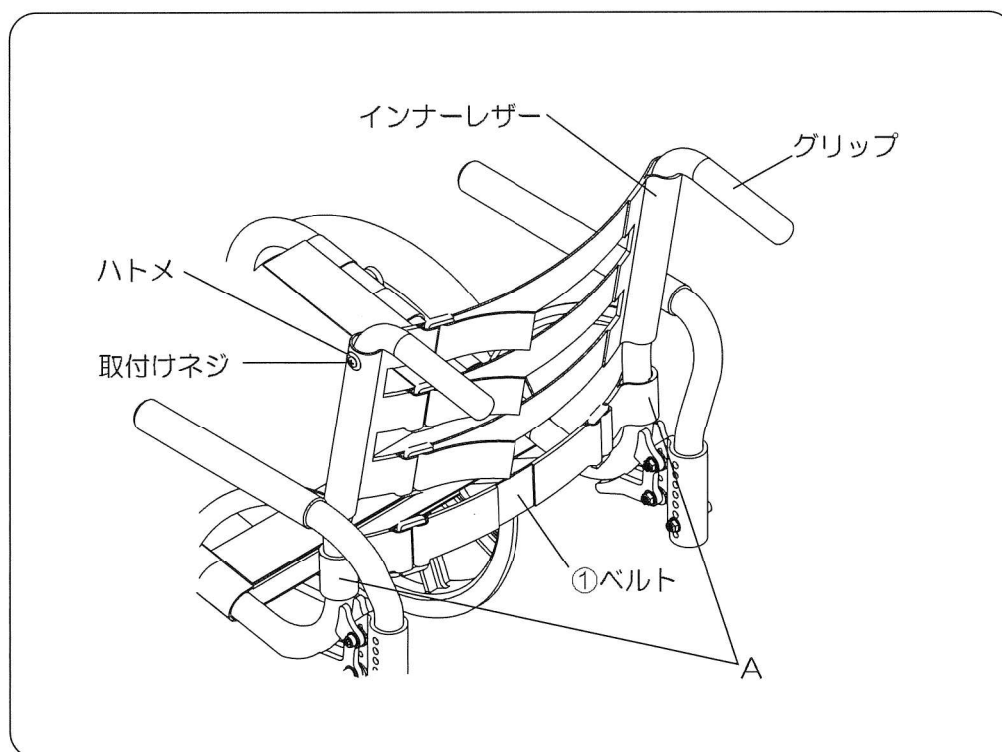
### <インナーレザーの取付け>【図2-6】

- 1) バックレストにインナーレザーを差込む。
- 2) <バックレスト高の調整> (P.28) を参照し、グリップの高さを調節した後、インナーレザーの左右を取付けネジで固定する。  
締付けの目安: インナーレザーにガタなくしっかり固定されハトメが潰れない状態。



面ファスナーに付着した糸くずなどは取り除く。  
\* 固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

- 3) ①ベルト左右の「A」の面ファスナーをフレームに巻きつける。
- 4) <インナーレザーの調整> (P.26) を行う。
- 5) ヒップレザーを取付ける。(P.25)



【図2-6】

# バックレスト及びレザー類の調整・点検

## ＜バックレスト高の調整＞【図2-7】

- 1) アームレストをはね上げる。(P.32)
- 2) ①ネジを外して、フラップ部を開きインナーレザーを押し下げ、  
②ネジ、ナット、ワッシャーを露出させる。
- 3) ②ネジ、ナット、ワッシャーを外す。
- 4) アジャストパイプを上下させて最適な高さに調節する。
- 5) ②ネジを固定穴と調節穴に通し、ナット、ワッシャーで締付ける。

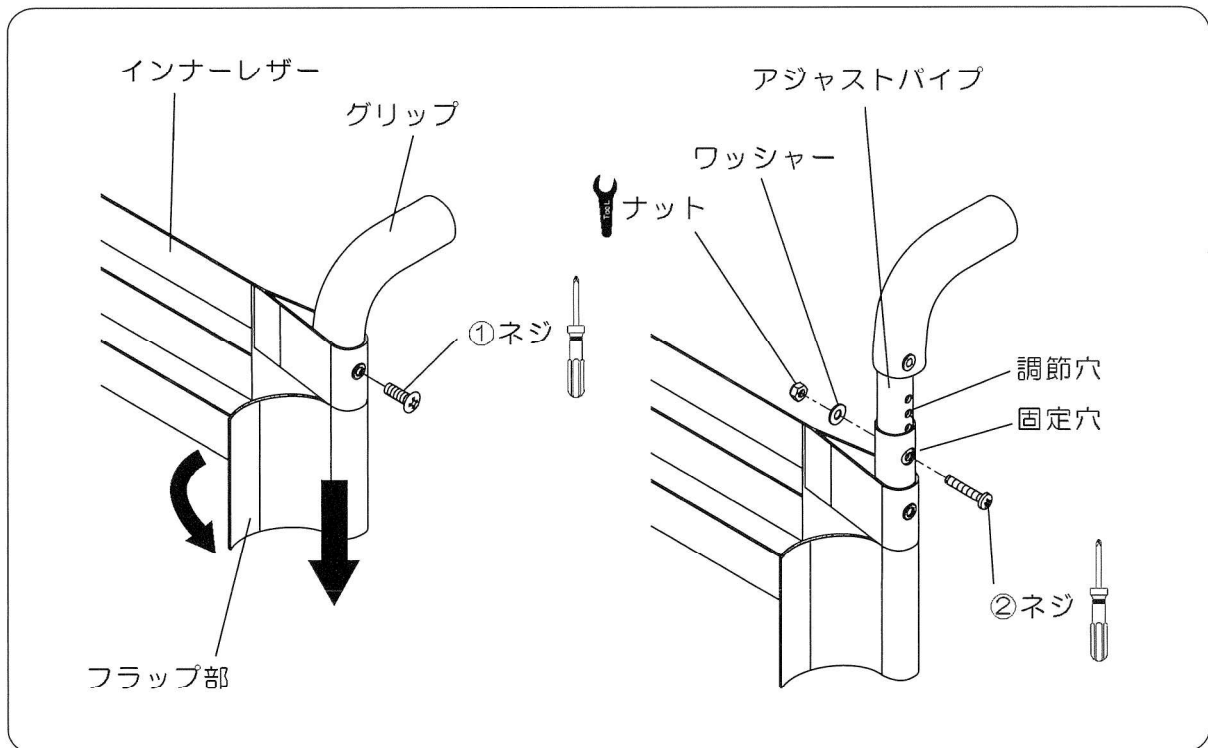
締付けの目安: グリップにガタなくしっかり固定され  
パイプが変形しない状態。

- 6) 反対側も同様に同じ高さに調節する。
- 7) インナーレザーを戻し、①ネジを取付ける。

締付けの目安: インナーレザーにガタなくしっかり固定され  
ハトメが潰れない状態。

### ⚠注意

左右のバックレスト高は必ず同じ高さにする。  
\*車いすが破損するおそれがあります。  
\*アジャストパイプの穴位置を左右で合わせてください。



【図2-7】

## バックレスト及びレザー類の調整・点検

### ＜シートレザーの張り調整＞【図2-8】

- 1) 車いすを裏返し、シートレザー裏側のバックルと面ファスナーで適切な張りに調整する。
- 2) ヒップレザーをシートレザーの張りに合わせて貼りなおす。(P.25)  
※身体がフレームに接触しないか確認してください。

### ＜シートレザーの外し方＞【図2-8】

- 1) 車いすを裏返し、シートレザー裏側の全てのベルトをバックルから抜く。
- 2) ヒップレザーをシートレザーから外す。(P.25)
- 3) シートレザーを取外す。

### ＜シートレザーの取付け方＞【図2-8】

- 1) シートレザーをフレームの上に載せ全てのバックルにベルトを通す。
- 2) ベルトを張る。
- 3) ヒップレザーをシートレザーに貼付ける。(P.25)

#### ⚠注意

シートレザーがたるんできたなら、ベルトを張る。

\* 身体がフレームなどに接触して褥瘡じくそうなどになるおそれがあります。

\* 調整後は必ず乗車した状態で座面裏側がフレームなどに接触していないか確認してください。

#### ⚠注意

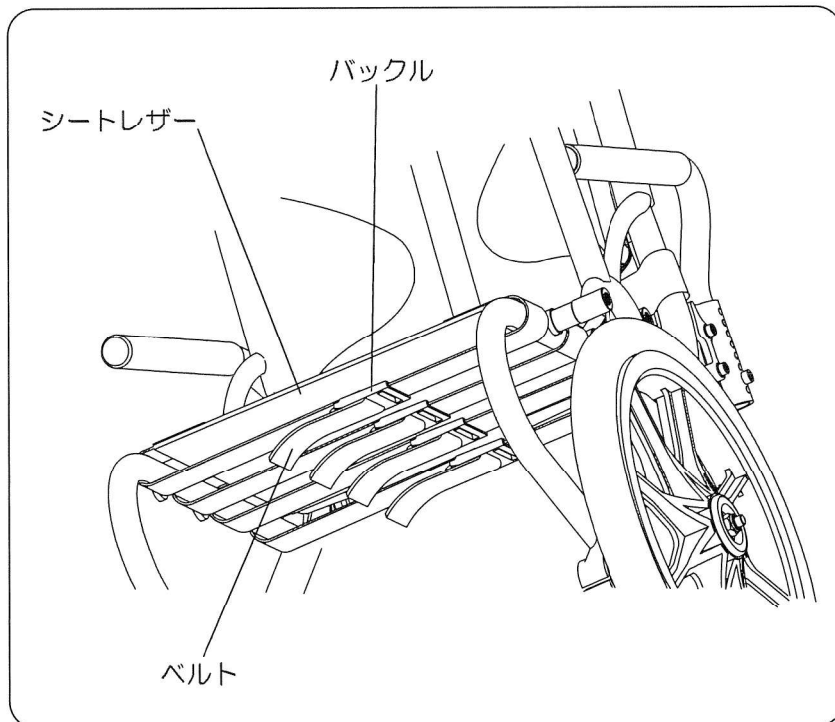
面ファスナーは確実に貼り付ける。

\* 固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

#### ⚠注意

面ファスナーに付着した糸くずなどは取り除く。

\* 固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。



【図2-8】

## リアキャストの調整

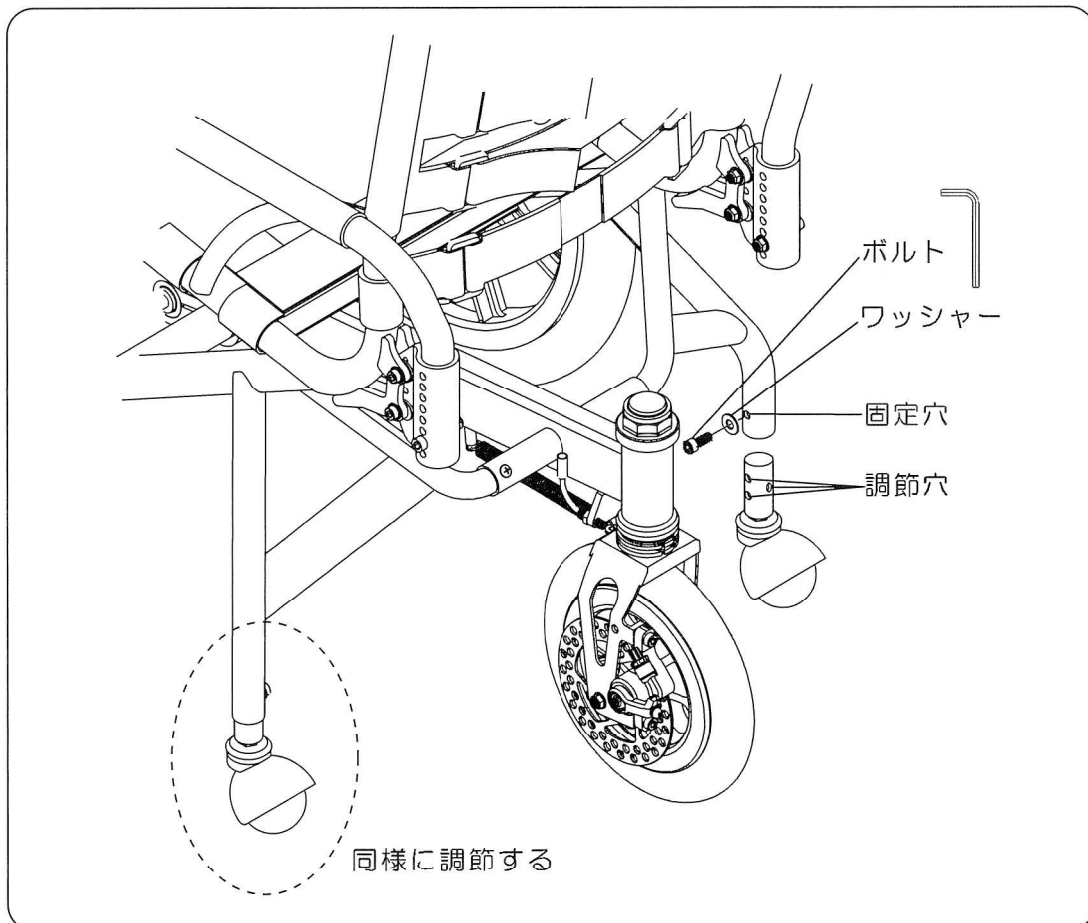
### <高さ調節>【図2-9】

- 1) ボルト、ワッシャーを外す。
- 2) 最適な調節穴に合わせる。
- 3) ボルト、ワッシャーで固定する。
- 4) 左右が同じ高さになるように調節する。

#### 警告

必ず左右同じ高さの調節穴を使用する。  
\*車いすが不安定になり転倒、転落のおそれがあります。また、車いすが破損します。

①ボルト締付けトルク 10N・m (1.0kgf・m)



【図2-9】

# 各部の調整・点検

## チェーンの調整・点検

### ● 張り調整・点検 (図 1-17 参照)

1. 調整方法: 附属品の六角レンチ 5 mm を使用し①調整穴に差し込み張りを確認しながら少しずつレンチを回す。

※時計回りに回すことでテンショナーが上がり、チェーンがゆるみが少なくなります。

反対側に回すとテンショナーが下がり、チェーンがゆるみます。

2. 最適な張りとは、a の部分が上下に 10～15mm 動く程度です。張りが強すぎると切断矢伸びの原因になります。

### 警告⚠

1. チェーンカバーに接触しないか確認する。

2. チェーンカバーに足を乗せない。

※チェーンカバーが破損する恐れがあります。

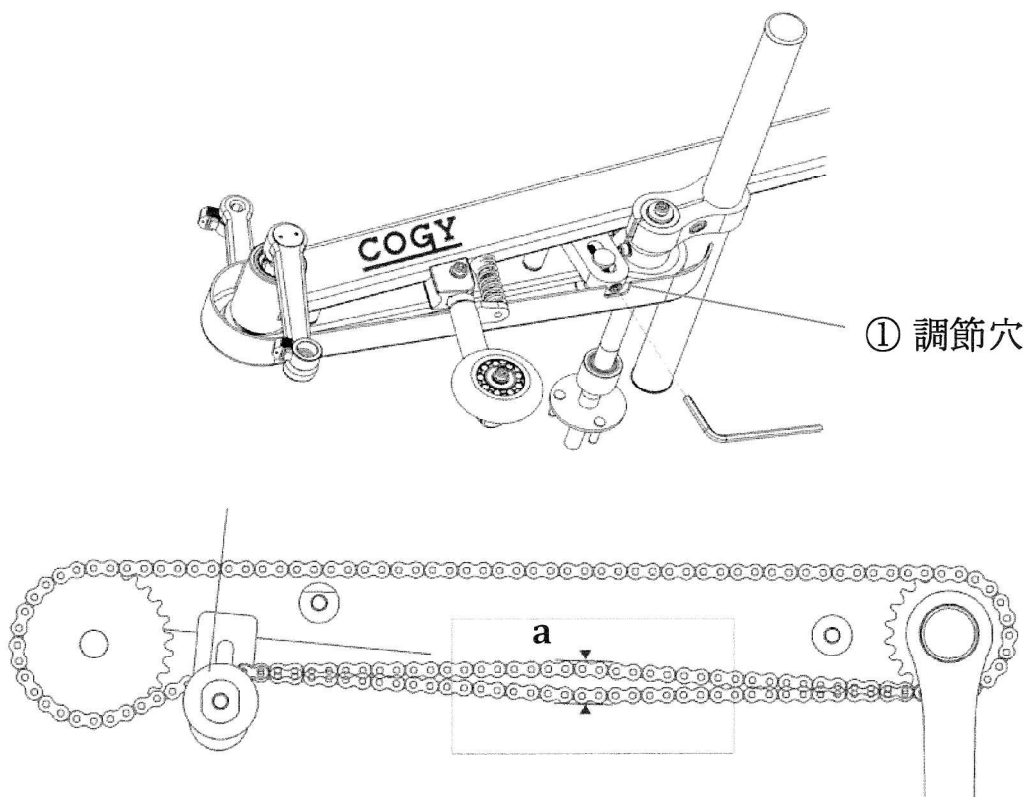


図 1-17

# アームレストの調整・点検

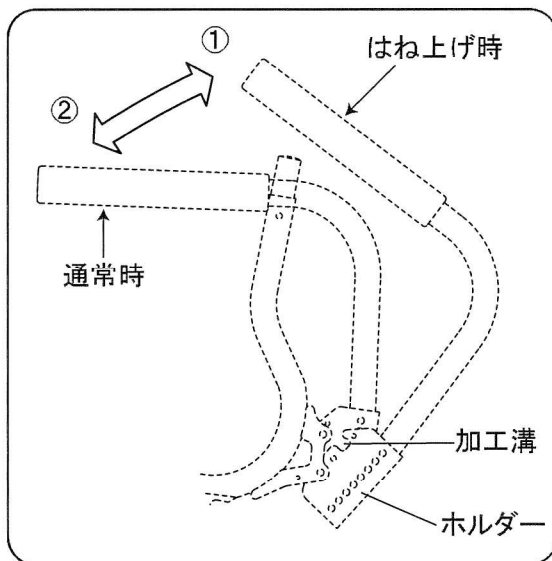
## <使用方法>【図2-11】【図2-12】

### はね上げる時

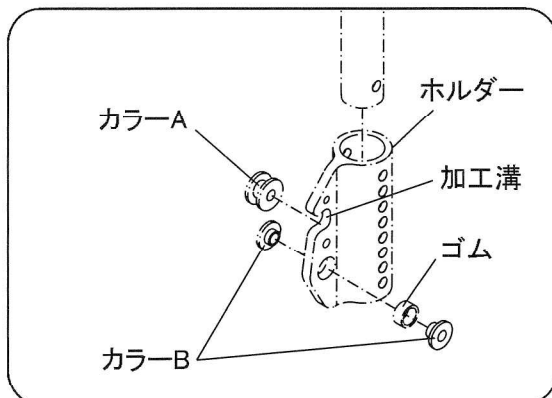
- 1) アームレスト先端を持ち、上方へ(①の方向へ)上げる。  
※はね上がった状態から、さらに後ろまで無理にはね上げようとすると破損するおそれがあります。  
※アームレストの可動範囲は、アームレスト高により変わります。

### 戻す時

- 1) アームレストを②の方向に押し下げる。
- 2) カチッとハマるまで押し下げる。  
※加工溝にカラーAがハマることでアームレストが固定されます。  
【図2-12】その際、乗り上げるような感覚がありません。
- 3) しっかりとハマっていることを確認する。  
※ホルダー内部には、ゴムとカラーBが入っていますので、多少のガタつきがあります。【図2-12】



【図2-11】



【図2-12】

### ⚠警告

分解・加工等はしない。  
\*アームレストが破損し、事故や転倒、転落等のおそれがあります。

### ⚠注意

アームレストを持って車いすを持ち上げない。  
\*転倒・転落・事故のおそれがあります。車いすを持ち上げる時は、必ずフレームかグリップを持ってください。

### ⚠注意

アームレストをはね上げた状態で走行しない。  
\*ホイールに衣類を巻き込まれるなど、思わぬ事故のおそれがあります。必ずアームレストを元に戻してから走行してください。

### ⚠注意

アームレストをはね上げたり戻したりする際は、手や衣類をはさまない様に注意する。  
\*ホルダーとバックレストプレートにはさまれてケガをするおそれがあります。

# アームレストの調整・点検

## <高さ調節>【図2-13】

- 1) ボルト、ナット、ワッシャー、スペーサーを外す。
- 2) 最適な位置の調節穴に固定穴を合わせる。  
※一番上の調節穴は使用しない。
- 3) ボルト、ナット、ワッシャー、スペーサーで締付ける。  
※このときスペーサーがホルダーの調節穴（大）に収まるように締付けます。
- 4) 反対側も同様に調節する。

### 警告

ボルトを締付ける際は図の順序で組付ける。  
\*アームレストが確実に固定されず事故のおそれがあります。

## <点検・部品交換>【図2-12】

極端に大きなガタつきやボルトの緩みがないか点検してください。  
使用しているゴム・カラーは消耗品のため、定期的な交換が必要です。  
ガタつきが増えたり、アームレストを戻す際の乗り上げが弱くなった場合は、販売店にご相談ください。

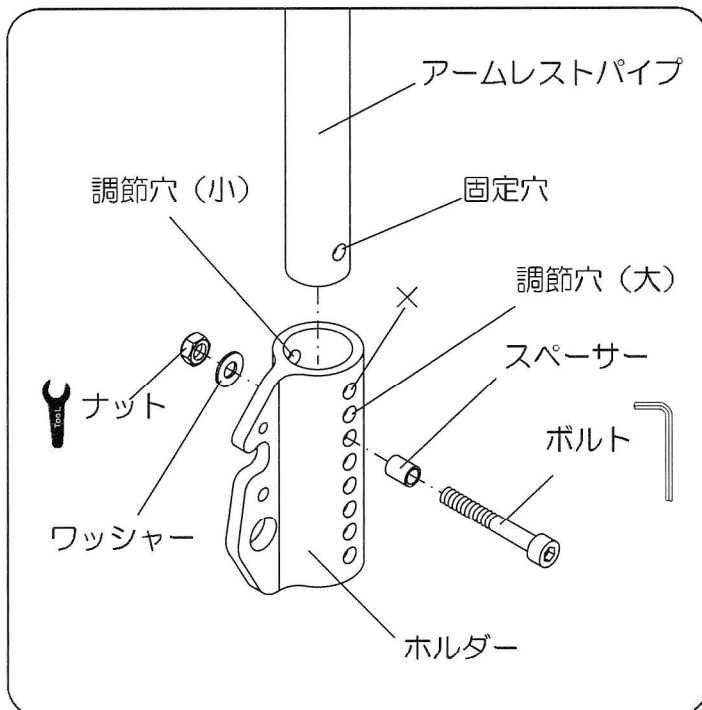
### 警告

ボルトはスペーサーを調節穴（大）に収めてから締付ける。  
\*アームレストパイプが確実に固定されず事故のおそれがあります。  
\*ボルトとアームレストパイプにスペーサーをはさみこむように締付けます。

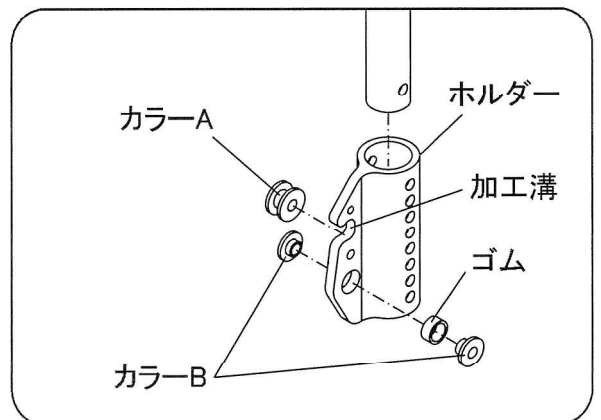
ボルト締付けトルク 9N・m (0.9kgf・m)

### 注意

一番上の調節穴は使用しない。  
\*アームレストが破損するおそれがあります。



【図2-13】



【図2-12】



## コントロールワイヤーおよびブレーキワイヤーの位置固定方法

コントロールレバーを次のように取り付ける際、コントロールワイヤー（2本のケーブル）とブレーキワイヤー（1本のケーブル）の位置が異なります。

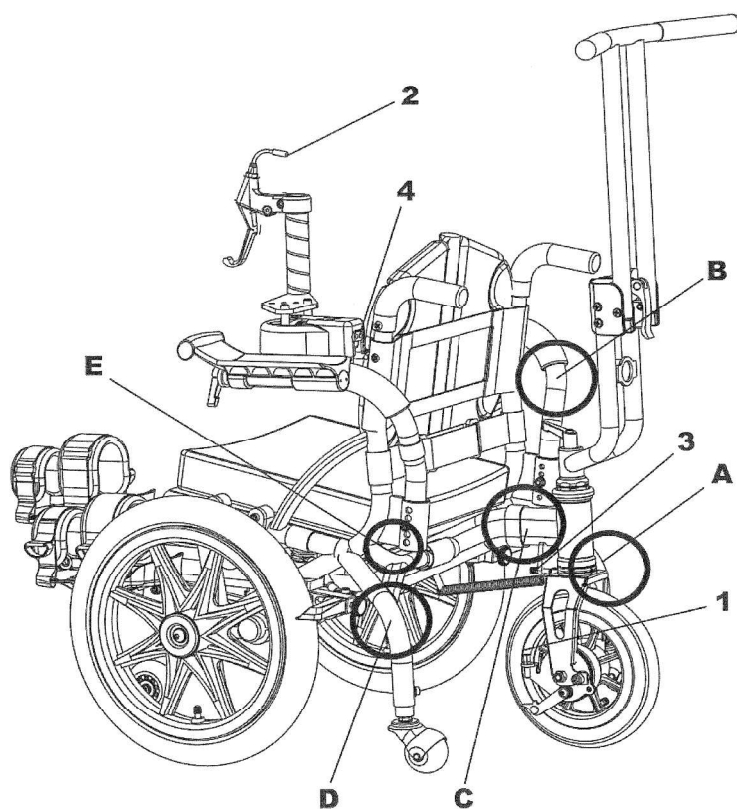
### コントロールハンドルを右側に設定した場合

- 1) コントロールワイヤーは、図 No.4 から図ポジション A を経てベルクロで固定され図 No.3 に配置される。
- 2) ブレーキワイヤーは、図 No.2 から図ポジション B にベルクロで取り付けられ、図 No.1 に配置されます。

### コントロールハンドルを左側に設定した場合

- 1) コントロールワイヤーは、図 No. 4 から図ポジション D までベルクロで固定し、図 No. 3 に配置する。
- 2) ブレーキワイヤーは、図 No. 2 から図ポジション E を経て図ポジション C にベルクロで取り付けられ、図ポジション 1 に配置されます。

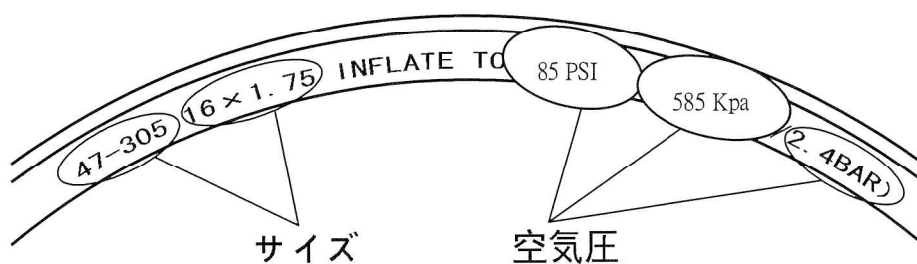
※車いす使用中（直進・後進・旋回・左右方向転換）している間はワイヤーへの接触や干渉、後輪にあるブレーキワイヤーに触れたりしないでください。



## その他の調整・点検

### <タイヤの点検>

1. 亀裂、損傷、異物、溝の深さ、異常な磨耗などを点検します。
2. タイヤに異常がある場合はお買い求めの販売店で点検・整備を受けてください。
3. 空気圧は適切か点検してください。  
※タイヤ側面に表記された空気圧の指示に従い、使用する空気入れのメーター表記を参考に入れてください。  
(図の数値は表示例です)



### ⚠ 注意

- パンクしたまま使用しないでください。
- 空気圧が少ないと車いすの操作が重くなり、パンクやタイヤ、ホイールを損傷させる原因になります。
- 空気圧が多すぎると少しの気圧や温度の変化でパンクするおそれがあります。
- 左右の空気圧は同一にしてください。

### <ホイール回りの点検>

1. ホイールの動きに異常が感じられたら、点検を行い必要に応じて調整、清掃、増し締めを行ってください。
2. ホイールシャフトの動きに異常が感じられたら、点検を行い必要に応じて清掃を行ってください。

### <その他の点検>

1. ネジ・ボルト・ナットの付いている箇所は1か月に1回、緩み、脱落、破損、異音が無いか点検してください
2. キャスター回りは1か月に1回、曲がり、破損、異音、回転不良が無いか点検してください。
3. ブレーキは毎日乗車する前に、ブレーキの効き、ボルト・ナット類の緩み、脱落などが無いか点検してください。
4. アームレスト、グリップは毎日乗車する前に、ぐらつき、大きなガタつき、ネジ・ナット類の緩み、異音が無いか点検してください。
5. チェーンの動きに異常が感じられたら、点検を行い必要に応じて調整、清掃を行ってください。

# その他

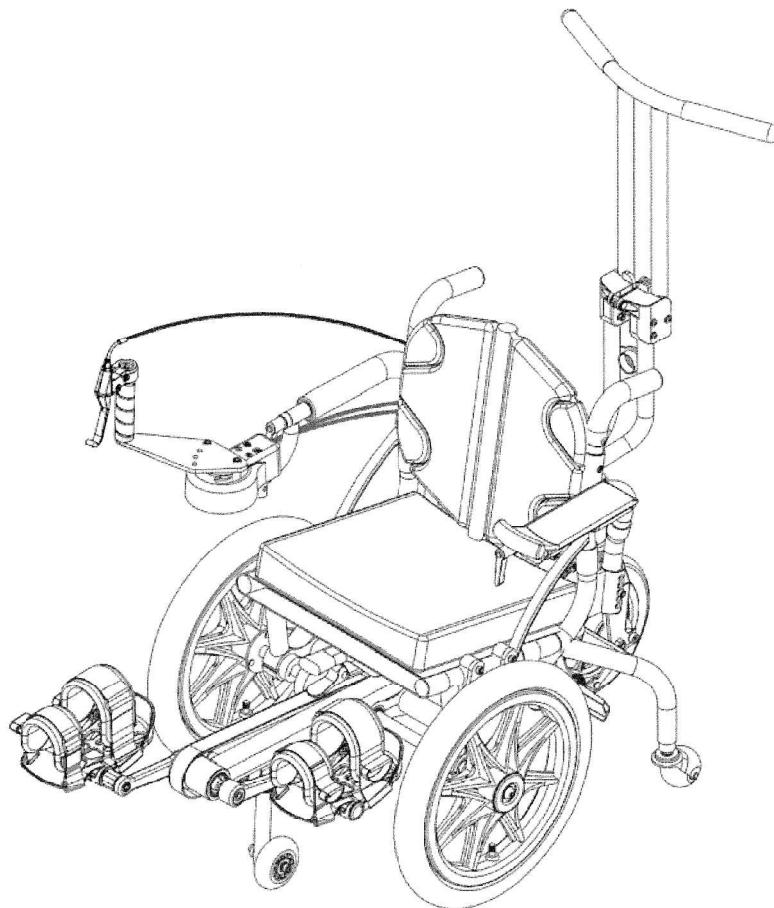
## 4章

### その他

この章では、各車いすの仕様緒元とお客様ご相談窓口のご案内を記載しています。

仕 様 緒 元

お客様ご相談窓口のご案内

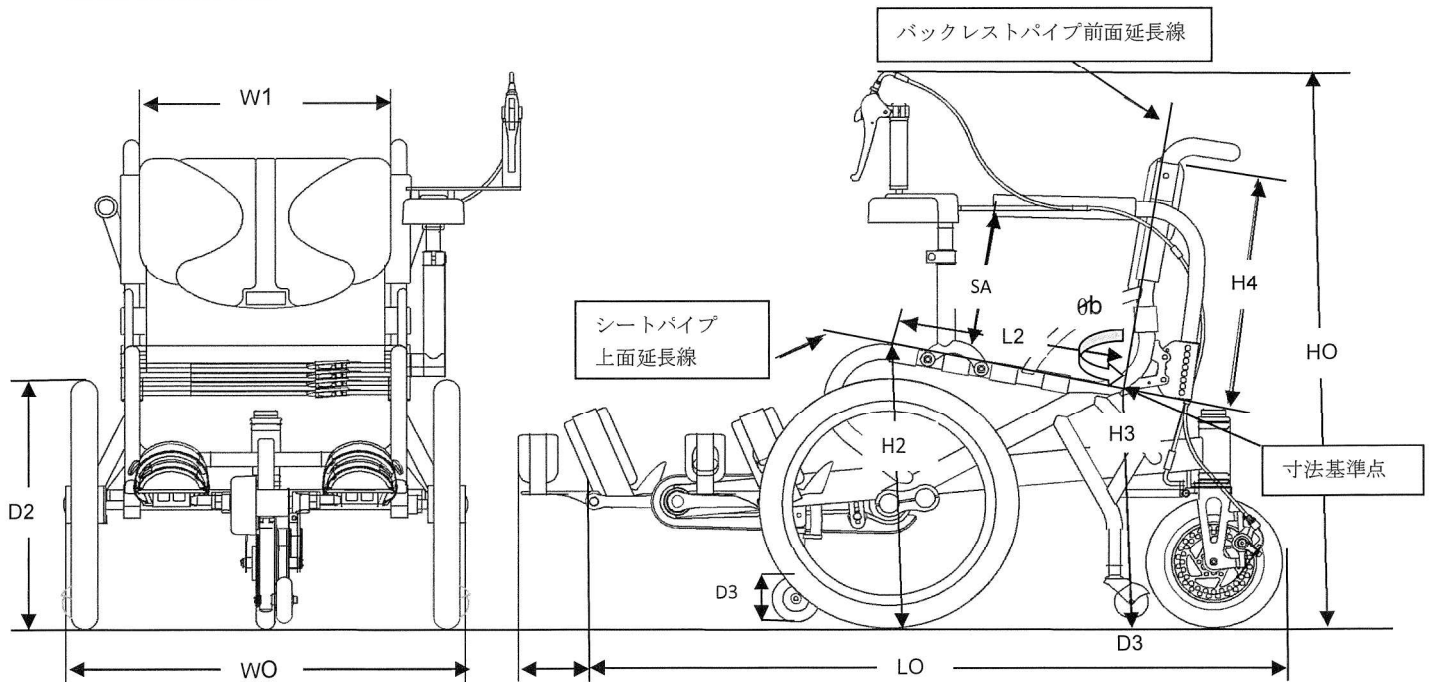


## 仕様諸元

スモールサイズ (SS)		(単位 : mm)
LO	全長	890
HO	全高	670
H2	前座高	340
H3	後座高	280
L2	シート奥行	290
W1	シート幅	310
WO	全幅	530
H4	バックレスト高	320~370 (10mmピッチ)
$\theta b$	バックレスト角度	89°
D2	タイヤサイズ	前輪14インチ 後輪 8インチ
D3	キャスター径	前72・後 50
SA	アームレスト高	160~200(10mmピッチ)
	ブレーキ	パーキングブレーキ (前輪) ドラムブレーキ(後輪)
	重量	12.6kg

下図寸法の記号

※本機及び付属品の仕様・外観は改良の為予告なく変更することがありますがご了承ください。



仕様諸元については、基本となる寸法のみを表示しております。

(補足情報)

後部補助ハンドル

使用可能状態 89 cm

折り状態 58 cm

36

# お客様ご相談窓口のご案内

## 〈お客様ご相談窓口〉

お買い上げいただきました当社の製品やサービスについてご質問、ご意見、ご要望などがありましたら遠慮なくお寄せください。また、各種オプション・アクセサリーのお問合せ、ご注文をお受けいたしております。

### 【お客様相談窓口】

株式会社 T E S S

〒980-8579 宮城県仙台市宮城野区榴岡 3-9-15

T E L : 022-353-9707 / F A X : 022-353-9708

Mail: info@h-tess.com

## 〈アフターサービスの実施〉

お買い上げいただきましたお取り扱い店が点検、修理はじめ、アクセサリーサービスのご相談などをお受けいたします。

## 〈パンクでお急ぎの場合は〉

お近くの自転車店に修理を依頼してください。